

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	熊本県	市町村名	熊本市	大学名	
派遣日	令和 4年 11月 2日(水曜日) 9:30~17:00				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔				
派遣場所	熊本市立黒髪小学校 熊本市立桜山中学校				
アドバイザー氏名	横溝 亮 先生 (横浜市立鶴見小学校 主幹教諭)				
相談者	熊本市教育委員会学校教育部 指導課				
相談内容	○外国人児童生徒の受け入れ体制の整備について ○日本語指導担当教員及び日本語指導協力員の指導力向上 ○日本語指導の授業参観及び指導、助言 ○日本語指導の教材・教具、指導プログラム、指導計画の作成について ○先進校の実践について				
派遣者からの指導助言内容	<p>1 参観授業(桜山中学校、黒髪小学校)の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○タブレットの活用はとてもよかった。めあてにつながる指導が大切になる。</li><li>○文章題を絵に表すという支援が子どもの理解を助けることにつながっていた。</li><li>○どちらの学校の授業も一人一人を大事にした指導、ほめることを大切にし、自己肯定感を高めている授業だった。</li><li>○中学生の学習内容を踏まえた丁寧な授業を組み立てられていた。(教科との統合指導)</li><li>○子どものよさを見つけてほめ、「日本語指導の先生とまた勉強したい」と子どもが思ってくれるような工夫をすることがよいと思う。</li><li>○学校、先生、地域とのつながりも大切である。<ul style="list-style-type: none"><li>・日本語指導と在籍学級の学びをつなげる。在籍学級の担任との連携が大切。(取り出し授業と在籍学級の授業内容を合わせる)</li><li>・地域の方からの応援も子どものやる気につながる。</li></ul></li><li>○指導案を作成する際の留意事項について<ul style="list-style-type: none"><li>・1時間の授業で押さえない日本語を明示する(指導語彙と表現を入れる)。そのことがどのくらいできたのか、授業の振り返りの中で使うようにする。</li><li>・可能な範囲で指導案の中にJSLレベルの記述をしてほしい。通常学級担任に見てもらい関心をもってもらおう。また、次の担任への指導に活かすことができる。</li></ul></li></ul> <p>2 日本語指導が必要な児童生徒の受け入れにあたって</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○日本語指導が必要な児童生徒への各種支援の流れの説明</li><li>○外国人児童生徒の確実な就学に向けた関係機関や関係課との連携</li></ul> <p>3 横浜市の外国人児童生徒の現状と取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○「横浜市日本語支援拠点施設ひまわり」の指導内容について<ul style="list-style-type: none"><li>・期間は短いですが、在籍学級で頑張ってもらえるように工夫し、その後も連携を続けている。</li></ul></li><li>○「横浜市の国際教室」について</li></ul>				

	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本語支援アドバイザーが各学校を訪問したり、授業支援や職員研修を行ったりしている。</li><li>・アドバイザーオンライン研修（月に1度）を実施している。計画的に実施することで、初めて国際教室担当をする教員の支援にも効果をあげている。</li></ul> <p>○「国際教室で大切にしてきたこと」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習に必要な言葉は学習に参加する中で身につく。何となく分かったではなく、使いながら、今日は〇〇が分かったと伝えられるようにする。板書や掲示物を残しておくことも大切である。</li><li>・実物・図表・写真・絵等を積極的に利用し、短く、分かりやすく、丁寧な言葉で話す。「聞く、読む、話す、書く」を1時間の授業の中にバランスよく取り入れた分かりやすい授業を工夫する。</li><li>・日本語指導で学んだことや頑張っているところを在籍学級で担任や友達に見てもらったり、逆に教えたりする機会を設けるなどいろいろな仕掛けをしてほしい。担任や在籍学級で認められることが一番うれしいので、在籍学級で認められるように担任と連携してほしい。</li></ul> <p>○指導の効果を感じられないとき</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・心の問題、見取りの問題、教材の問題などが考えられる。いつも意欲的に学ぶとは限らない。資料を参考に考え、工夫してほしい。</li></ul> <p>4 日本語指導担当者の指導力向上に向けた取組について</p> <p>○教材の活用方法について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・デジタル教科書の活用、ひまわり練習帳等の紹介</li><li>・個々の指導者の教材を共有し、市全体での情報共有、活用をしていくとよい。</li></ul> <p>○研修を計画的に実施し、担当者の指導力を高めていくことが大切。</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>※講師の指導助言をもとに、初めて国際教室担当をする教員が指導案を作成し、11月18日（金）に研究授業を実施。また、3学期にも小学校、中学校でお互いの授業を公開する予定。</p> <p>1 小・中学校とも授業を参観していただくことで授業を通じた交流ができた。講師の先生からの指導・助言を受けて多くの学びがあった。事後のアンケートでも今後の実践に早速取り入れていきたいという感想が多かった。今後は、互いの授業を参観して学び合う機会を設けるとともに指導・助言を受ける機会を設けたい。</p> <p>2 講師の横溝先生の丁寧で分かりやすいお話に日本語指導者の意欲が高まり、大変有意義な研修になった。対面での研修を実施することができ、悩みや質問にも答えていただきとてもよかった。次年度もアドバイザー派遣による研修を希望したい。</p> <p>3 日本語指導担当の教員だけでなく、日本語指導協力員にも参加してもらった。研修後の授業参観では、この研修がよりよい授業づくり、子ども達とのよりよい関係構築につながっていると感じる。次年度以降も市教委主催の研修会を開催し、指導力向上に努めたい。</p> <p>4 熊本市は外国人児童生徒が増加しており、次年度にTSMC 関連の児童生徒の増加が想定されている。受け入れ体制の整備や教育委員会とセンター校及び各学校との連携体制をより充実していきたい。</p>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。